



頼られる「技術支援機関」として

所長 水元 弘二

このたび、4月1日付けで当センター所長を拝命いたしました。前任者の清藤所長同様、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、わが国の経済は非常に厳しい環境の中で、新世紀を迎えました。株価の低迷、企業の設備投資の低下、商品の低価格化や消費の冷え込み等昨今体験したことのない「緩やかなデフレ」状態にあります。このような先の見えない山道の中、経済再生の期待を担うのは、やはり戦後と同様に中小企業やベンチャー企業であることをあらためて認識すべきであり、そしてそれを後押しする役割を担うのが国公設試験研究機関であると考えています。特に地域の経済浮揚に大きな役割を果たすのは地方公設試であると思います。

私が35年前、工業試験場赴任時に場長から「町医者になれ」と言われたことを今でも覚えています。当時の町医者は小回りが利き、的確に病状を把握し、専門分野でなければ専門医を紹介、そして病後のケアをするなど、町医者は町内の人々にとっては頼られる存在でありました。

対企業の最前線にあるのが地方公設試ゆえに、私どもの役割もどこか「町医者」に似ています。新世紀を迎え、今一度「町医者」の原点に学び、頼りがいのある地方公設試のありようを模索しながら、職員一同努力してまいりたいと思います。

前置きはさておき、今年度の当センターの目標とする主な機能強化と役割を紹介します。

「化学部」を「化学・環境部」に改編、研究員を増員して機能強化し、資源循環型社会づくりに取り組みます。近年、環境保全やリサイクルに対する認識・意識が高まる中、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法等の新たな法規制の動きに対して、県内では民間・行政等による積極的な取り組みが展開されてい

ます。その中で当センターに対する期待も大きくなり、対処も求められています。現在、排水の処理技術、発泡スチロールのリサイクル、モウソウチクや樹皮等未利用資源の活用などの開発をテーマに研究を行っていますが、さらに環境を配慮した研究開発を押し進め、環境関連産業の創出を目指していきます。産学官や産官連携による提案型研究開発事業や共同研究等を積極的に推進します。今年度は、NEDOの即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業に「使用済み発泡スチロールの完全循環型再生技術及び装置の開発」と「新方式高感度薄膜圧力センサの開発」の2件が採択され、共同研究がスタートします。

研究開発・技術支援は、産学官による委員の意見や提案を十分に取り入れ、地域企業への技術移転に繋がる研究や技術支援を邁進させます。市場ニーズを捉えた独自技術による高付加価値製品の開発や新分野への展開、新規創業を目指すベンチャー企業の育成・支援と新産業クラスターの形成を図ります。

技術相談、研究成果発表会、研究会、技術講習会、情報提供・配信等の技術支援を積極的に行い、業界の皆様の御要望に応えていきます。

最後になりましたが、これからも行政・各支援機関、県工業倶楽部など業界団体や各企業のご支援、ご協力を頂きながら「21世紀新かごしま総合計画」の重要な柱の1つである「創造性あふれ力強く伸びゆく産業の振興」を推進するため、職員一同最善の努力をしていきたいと思ひます。今後とも、皆様に頼られる「技術支援機関」として当センターをなお一層活用されますことをお願ひ申し上げます、企業各位の益々の御発展を心より祈念いたしまして、挨拶といたします。